

敬礼

須賀川市立第二中学校 2年 須田 琴菜

会ったことのない曾祖父は消防士だったという。兵役を終え帰国した後、家族や地域を守れる仕事をしたい、とその仕事についてと聞いている。だからなのか、私は消防士さんやお巡りさんに、周りの友達が持つより少しだけ多く親近感と敬意を感じていると思う。私は呼びかけの消防車や、パトカーに出会うと、迷惑にならないように気を付けながら敬礼をすることにしていた。時々、答礼を返して下さることもあり、その時はついつい顔がほころぶ。そんな私を友達は、ヘンな琴菜、と笑う。どうしてそれが嬉しいの？私は考えてみた。地域を見守ってくださっていることに対する、私の感謝が伝わったから？勿論それもある。でも、それだけでないような気もして答えは見つからないでいた。

学校の授業で、先生に「地域に貢献してみて。今の安全な暮らしが続くように。」と言われたことを思い出す。私たちにできることは何だろう。先生方はおっしゃる。積極的に地域の行事に参加すること、それから挨拶をすること。それがあなたにできる、安全なまちづくりですよ。きっと大事なことは地域の一員であることなのだろうと思った私は挨拶から始めることにした。すれ違う人に挨拶をする。無視されたときは少しへこむが、だからと言ってそれが挨拶をやめる理由にはならなかった。

ある、お祭りの日の夕方だった。出店を楽しんでいた私は小さな女の子が泣きながら歩いているのを見た。周りの大人の人たちが心配して手を取ろうとするが、怯えもあるのか女の子は手を引っ込めて泣き続けている。私も近くに行ってどうしたの、と声をかける。すると彼女は、ママがいないの、と私に返事をしたのだ。私は周りの大人の人にそれを伝え、数分後、無事にお母さんがやってきた。彼女が周りの人に礼を述べると、人々は口々に、このお姉ちゃんだけにはお話ししてくれましたよ、と言った。母親が理由をきくと元気になった女の子は小さな声で言った。「前にこんにちわしたことがあったから。」それを聞いて私は嬉しくなった。私の挨拶運動が、彼女から助けを求め

る言葉を引き出せたと思ったからだ。そして気づいた。挨拶の持つ力は地域の安全に確かに役立っていることと、私がお巡りさんや消防士さんに答礼をいただくとどうしてあんなに嬉しいのか。それは、安全に暮らせる地域を守るため、一緒に頑張ろうと言ってもらっている気がするからだ。地域の一員として認められ、励まされている気がするからだ。今日も、これからも私は元気に挨拶をする。ちょっとおこがましいけれど、地域を守る「仲間」としてパトカーや消防士に敬礼もしたい。そして、会ったことのない曾祖父にもそっと心の敬礼をするのである。